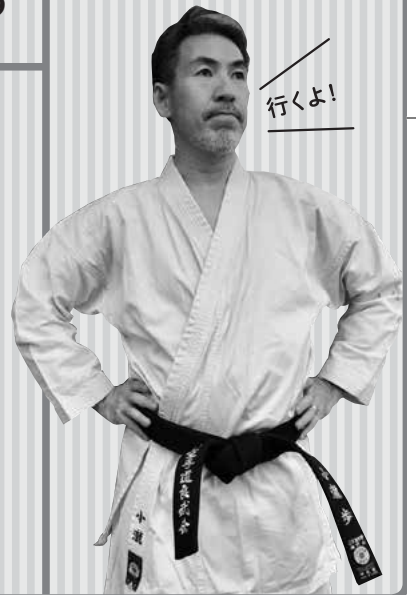


〔連載〕

コタツキーが行く！

まだまだ伸びる！ 注目の介護事業所探訪

第24回 機能訓練と口腔ケアから全身の体力向上を目指す ——日本シューター——



アグリマス株代表取締役 小瀧歩

病院向け自動搬送システムを中心に多彩な分野で省力化システムを開発・提供する(株)日本シューター。介護事業にも参入し、「デイサービス暖団」を京都市内および滋賀県草津市内で展開。機能訓練とともに口腔ケアにも注力するその取組みを西大寺店の寺崎勇介施設長と歯科衛生士の藤井美和氏に伺いました。

機能訓練と同時に口腔ケアで生活意欲の改善に

小瀧●寺崎施設長はこの会社、長いのですか？

寺崎●スポーツ系専門学校（福祉スポーツ学科）を卒業した20歳のとき、新卒で「デイサービス暖団」のオープニングスタッフとして入社し、14年めになります。立上げ当初から、お絵描きやレクなど一切なく、機能訓練中心でやってきたのですが、14年前は機能訓練型が少なかった時代でしたので、高齢者にそんなの絶対

に無理だろうと、厳しいご意見を頂戴することも多かったです。

小瀧●時代は後から付いてきますね、現在の「保険外サービス」なんかもそうですしね。

寺崎●当初から「自立支援」を理念に掲げていたため、スタッフ間での意識の統一を徹底しました。たとえば、単に「上肢、下肢を強化する」と言っても、なかなかその効果がわかりづらく、それよりも「洋服を1人で着たい」「お箸で豆をつまめるようになりたい」「孫とキャッチボールがしたい」とか、日常生活動作を目標設定するほうがわかりやすいよね。ケアマネジャーさんにも、ご家族の方にも当然にその効果は目に見えてわかりやすかったので、少しずつ暖団に対する評価も上がっていききました。

小瀧●まさに今で言うところの個別機能訓練の走りだったわけですね。

寺崎●それに加えて当時は「フィジオン」

という筋量計を使い、3カ月毎に筋肉量の測定も実施して、結果を客観的な数字としても見える化していききました。

小瀧●なるほど。機能訓練、運動面以外の特徴についても教えてもらえますか？

寺崎●当所では、口腔ケアについて、特に力を入れています。お正月にお餅を喉に詰まらせて亡くなる方がいたり、お昼ご飯中にむせが多かったり、誤嚥性肺炎で長期欠席者がふえたりしていたことから、まずはそこを何とかできないかという問題意識がありました。口腔機能向上加算算定のために歯科衛生士を採用し、お一人様、月に2回の個別ケアを行ない、お口の中のチェックとお口の周りの筋肉を強化しています。お口の中のケアを始めていくと、身体全体の筋肉量がふえていったり、むせが少なくなっていくと目に見えて結果が出てきました。

小瀧●確か、口腔ケアに関する論文も御社では出されていましたよね？



歯科衛生士 藤井美和氏



施設長 寺崎勇介氏

寺崎●はい。運動のみされている方と、運動に加え口腔ケアをされている方の筋肉量と筋肉率の比較をしたのですが、明らかに後者の方がよい結果が出ました。これは西大路店のみならず、他の2店舗（一乗寺店・草津店）についても同様の結果になり、全体で約160人のデータになります。元京都府歯科衛生師会会長で、ぶらす歯科衛生士事務所の佐々木先生にコンサルをしていただきながら、各種データをとりまとめました。

先生としても、介護予防に関する口腔ケアについては、当時はまだ珍しかったということ、1年間試行錯誤しながら介護予防に望ましい暖団式の口腔ケアの形をつくっていききました。

小瀧●私たちも健康脳測定会という認知症の超早期発見と重症化予防の事業を行なっていますが、そのなかで唾液検査を



「デイサービス暖団」西大路店

行なうと、かなりの割合で歯周病菌が検出されます。歯周病菌と認知症の関連についても最近では言われてきていますので、何か暖団さんの取組みと連携ができるとよいですね。

寺崎●是非ともやりたいです。歯周病菌に関して言うと、南口腔ケアセンター（京都市南区）様の歯科医や歯科衛生士の先生方とも連携し、年に1回は無料歯科検診を行なっています。そこで虫歯や歯周病の問題があれば、歯科受診や訪問歯科へとつなげていくようにしております。そのなかで、お口の中が汚れていることが原因で、誤嚥性肺炎や日常生活の意欲低下の原因にもなっていることがわかりました。たとえば、引きこもりの方の理

旅行サービスも展開 社会参加を積極支援

由として、口臭や食べこぼしがひどく、それが恥ずかしいため家族とも疎遠になっているケースがありました。そこで口腔ケアを数カ月継続して行なった結果、口臭がなくなり、人とおしゃべりすることが楽しくなった、家族との関係性も非常によくなったと言われる方が、実際に何人かいらっしゃいました。この社会参加への意欲の向上というのは、予防において、大変重要だと考えております。

また予防という観点では、弊社グループでは「暖団トラベル」（京都府知事旅行業登録第3-645号）という旅行サービスも展開しており、ご利用者様、ご家族、お友達も一緒に、月に2、3回ツアーを開催しております。介護職員は皆国内旅程管理研修を会社負担で受講してアテンドしています。ですから、それぞれのスタッフが利用者様に参加への声掛けを行ない、個々に自立のための目標を立てて一緒に旅行に行くところまでやっています。これはご利用者様ももちろん喜んでくれますが、社会参加という目標達成に深く関与できるという意味では、スタッフにとっても非常によいモチベーションになっています。

小瀧●口腔ケア⇒社会参加⇒目標達成、それこそがまさに個別機能訓練の計画

くりと達成のプロセスであり、素晴らしい介護予防の仕掛けですね。話しは少し戻りますが、デイでの食事で何か取り組んでいらっしゃることはありますか？

寺崎●人により当然好みもありますので「選択食」という制度を設け、3種類のなかからお好きな食事を選べるようにしています。この厨房は委託の会社さんに調理をお願いしているのですが、昼食時には手づくりの料理をご提供させてもらっています。また食事の配膳、上げ下げについては、可能な方は自分たちで行なうなど、セルフケアを重視しています。また管理栄養士を雇用し、来年度からは「認定栄養ケアアステーション暖団」という栄養サービスを立ち上げる予定です。

小瀧●なるほど。歯科衛生士の方にもお話しも聞かせていただけますか。

藤井●暖団では、毎月のマンツーマンでの個別指導に加え、3カ月毎に20項目以上のアセスメントを実施し、現状の把握を行ない、改善の必要のある部分を明確にしてアプローチしています。ほとんど施設でも集団口腔体操や歯磨きの指導までは行なっていると思いますが、ここでは、お1人ずつ時間をかけての観察、ケアをさせていただけるということ、専門職としてはやりがいがあります。たとえば、いつも食事中にむせがある方について、何が原因でそのむせが起きているのか、食べる時の姿勢なのか、早食

だからなのか、口の中に原因があるのかな等々、お1人おひとりを精査するチャンスがここにはあります。100人なら100通りの原因がある、それをしっかりと見据えてアドバイスをします。入れ歯を使用しておらず、食形態が下がった方に対して、口まわりの筋力強化の運動訓練を行なうことで、食形態が改善し、身体全体が元気になってきたというケースがありました。本当に嬉しかったです。

コタツキー、かく考えり

教育研修や、キャリアパスなども含めて組織としてさまざまな仕組みを構築している会社であり、若手でも勤続年数が長い社員が多いのもその結果なのでしょう。売上げも毎年伸び、社員の給与も毎年上がっているとのこと。社員の安定、働くことの満足感があつての素晴らしい施策の数々と思いました。

小瀧 歩 (こたき・あゆむ)

アグリマス(株)代表取締役
税理士 神道自然流空手初段

1967年生まれ 早稲田大学商学部卒。不動産、生保、大手監査法人を経て2003年新興市場へラクレスの立ち上げに参画。弥生(株)執行役員の後、独立。10年、アグリマス株式会社設立。東京・大田区にて「日本一食事にこだわる」デイサービスを開設。「産直八百屋」「ヨガ」とともに介護予防プログラムの「健幸TV」運営。2016年厚生労働省「保険外サービスガイドブック」掲載。2017年経済産業省「健康寿命延伸産業創出推進事業」採択。2018年(社)日本健康食育協会「健康食育アワード・大賞」。